

新しい分野で仕事をしたい

國領 昭典（平成十年三月卒）
NTT京都支店勤務



私は以前から海外指向が強く、発展途上国を豊かにしていくのに貢献したいと考え、いままで、ゼネコン、重工、商社、松下電工も回りましたが、

リクルーターの方から、「NTTはこれから国際業務を始めるので開拓的な仕事ができる」と勧められて入社しました。

現在は京都の中小企業八十社ほどを担当して、ITを使ったビジネスモデルを提案する経営コンサルタント的な業務をやっています。情報を収集して、加工して付加価値をつけていくことが必要とされます。経営者にとって価値のある情報とは、その情報を一番最初に持ってきた人の情報なのです。そのため、日経新聞はもちろんのこと、専門的・技術的な雑誌や「タイム」も読みます。

就職に臨む後輩の皆さん、授業にはきちんと出席すべきです。トレンドは変わっていくものですから、目先のこ

とだけを考えず、経済の流れをつかみ、確固たる世界観をもつことです。面接の際に表面的にとりつくろってダメです。何にチャレンジしたいのか、本質に迫るものをもっていなければ採用はおぼつかないことを肝に命じてください。

先輩

自分に合った会社で働きたい

橋本 茜（四回生）
八木通商株式会社に内定



時、社員、皆さんの皆さんが、生き生きと仕事をされている雰囲気を感じま

した。面談では、人事の方がおっしゃった「毎年本当に働いてもらいたいと思う人がいた場合のみ採用しています。



の声

いかなかった場合には採用ゼロということになります。」という言葉に驚くと同時に、この会社で働いてみたいと思うようになりました。その後は八木通商にあるすべての部署を調べ、この部署に配属されたら私はこのような仕事ができる、またはしたいということと言えるようにし、八月初旬に内定を頂きました。

その頃には就職活動を終えている学生も多かったのですが、それほどプレッシャーは感じませんでした。それは、六月頃から、就職内定をもらうための活動から、入社してから私自身が成長できるか、楽しく働けるかを見極める活動へと変化させていったためだと思います。そして、一時的に自分を失った時に、私の思いを聞いてくれる家族や友人がいてくれたからだ、今振り返って思います。

大学院生の声

酒井 一成 文系の大学院生は就職に不利であるという噂にもかかわらず、見事松井証券に就職が内定しました。

二月から就職活動を開始し、六月初めに内定しました。年齢制限に引っかけたところが一社だけありましたが、ほとんどの会社では学部生が大学院生かよりも、本人の個性が重視されていたように思います。面接では、大学院に進んだ成果についてよく質問されました。

大切なのは、早めに活動を開始すること、それから、大学院生は情報を得にくいので、企業の説明会などで友人を作り情報交換をすることだと思います。

茶谷 芳 国家公務員 種に合格

試験勉強は一回生の三月頃から本格的に始めました。模試を何度か受けたことで、全国の公務員志望者の中での自分の位置がわかり、とても参考になりました。

大学院での研究と試験勉強の両立など、合格に至るまではいろいろと大変なことがあるので、自分をしっかり持っていることが一番だと思います。

何事にも努力する姿勢を

國広 英司
 (平成十二年三月大学院修了)
 國広会計事務所勤務



私は昭和六十二年に本学経済学部を卒業後三菱自動車に入社しましたが、平成七年に退社しました。当時は車の

セールスの販売成績もよく(東京地区の新人で一番)会計の仕事もこな

し、順調でしたが、上司に「海外にいかないか」といわれたとき、自分の人生設計、ライフワークはなにかと考え直しました。そして、海外に行くこと、自動車総連に行くことよりも会計学・財政学を学び直して父親の経営する会計事務所転職しようと考え直したわけです。三菱自動車では東京・田町の本社勤務で、ピークのときは月一八〇時間の残業、会社で泊まって仕事をすることもたびたびありました。

大学院を終了し、この四月からは國広会計事務所勤務していますが、大企業と中小企業の差異、大企業の行動が直に中小企業に影響することなどについて、つくづく考えさせられます。

大手の会計事務所も以前と違って中小企業の監査などもやるようになってきて、中小の会計事務所も長期的ビジョンがしっかりしていないとダメになってきています。仕事のエリアを広げていくことや、中小企業に会計事務所をすることだけではなく、経営面でもつればその会社が伸びていけるかといった、会計事務所がどう付加価値をつけてサービスを行うかが大事です。しかし、中小企業では同族会社が多く、ワシマン経営されている方の意識を変えるのは並大抵のことではありません。後輩諸君には、「やりがい」とか言うよりも、まず「働いてお金をもらう」というありがたみを知ることが先決です。大学での勉強がそのまま社会で役立つことはありませんが、何事に対しても努力する姿勢が大事です。それと私の学生時代にはまわりに優秀な仲間も大勢いましたし、上級生には従順、服従の縦社会でしたが、その中で多くの経験を積むことができました。皆さんも沢山のひとに出会って自分の人生を豊かなものにしてください。



自分が主人公となって就職したい

花房 力(平成十一年三月卒業)
 東京三菱銀行勤務

平成十年一月に就職活動を始めました。希望業種としては都市銀行、商社の二業種に絞りを絞り、会社のネームバリューにとらわれず、自分にあつた会社を捜そうと行動しました。

面接のときには、何を勉強してきたか、あなたはどんな人間かというような質問がどの企業からもされました。

私は、「自分が大学で勉強してきたことは、インゼミに参加して発表した管理会計の原価企画です。」と答えました。私にとってはゼミが最も大事なもののなので、ゼミと面接が重なった場合には面接日を調整してもらいました。

面接で大切だと思ったことは、自分が主人公であるということ認識しておかないと自己を見失ってしまうことになりかねないことでした。それと同時に、就職させてもらうという意識ではなく、自分がその会社に就職してやるのだというぐらいの気迫で面接に臨んでいけば、相手もそれに答えてくれることが多いと感じました。

強調したいことは、大学でゼミを大切にすることです。ゼミ生の間での情報交換も非常に大切です。信念・自信をもって就職活動にあたることです。



左から酒井さん、山崎さん、茶谷さん

山崎 桃子 税理士志望者が多い大学院生に、税理士事務所働いた経験から一言。

税理士の求人には、十二月、三月から四月頃の二回ピークがあります。具体的な就職先は、職安や新聞の求人、専門学校の斡旋や大学の先生の紹介などで見つけるようです。

同じ税理士事務所でも特色はさまざまです。大学院には私の他にも税理士事務所働いた経験のある人がいますので、そういう人の話を聞いて自分に合った事務所を探すのがよいと思います。